

地域の会 質問・意見書

日付：2020年7月29日

氏名：宮崎孝司

新潟県に対する質問

今年度、原子力防災訓練、中でも「冬季避難訓練」行うとの説明がありました。「冬季」の避難は危険を伴うことが十分想定される場所ですが、いつ起こるかもしれない原発事故を考えれば「冬季避難訓練」もやらざるを得ないものと考えます。

しかし、これまでのように一部住民の参加では、実効性について評価することはできません。全住民参加に近い形で、原則どおり自家用車で避難してもらうことです。今度、冬季に新型コロナ感染防止を加えて行うとすれば、これまでの説明では足りません。マニュアルを変更するところが出てくると思います。例えば、

- ① 車での避難に「乗り合い」を奨励していましたが、三密防止からすすめられません。
- ② 非常持出品に寝具や衣類・着替えなど、避難先や車中での寒さ対策が必要です。
- ③ 駐車場や進路の確保のためシャベル等除雪に備えることも必要です。
- ④ 冬季の避難では、二次被害にあう恐れがあります。ガイドブックには、「避難しないほうが良い場合もある」となっています。「避難しない」場合の避難法を理解してもらうことがあります。

県は「訓練実施前に別途それぞれお知らせします。」とありますから、「知らせるべき内容」と県民への「周知の方法」を教えてください。

また、冬季の訓練、新型コロナ感染防止を加えた防災ガイドブックを市町村に作るように指示しますか。それをもって住民説明会を訓練前に開く考えはありませんか。

県の防災訓練の目的は「各機関と住民の対応力の向上を図る」とあります。住民の理解なくして、対応力は育ちません。ぜひ、冬季、コロナ禍での避難の方法を住民に明示してください。

以上

地域の会 質問・意見書

日付：2020年8月15日

氏名： 高桑千恵

東京電力

に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

竹内委員の液状化対策の取り組み状況についての質問に対して、200 回定例会で示された回答書の中に「・・・液状化の影響として大湊側の敷地全体が1 m沈下することを考慮しており・・・」とありました。“液状化の影響として大湊側の敷地全体が1 m沈下することを考慮している”ことに関して質問です。

- ① 原発では、どの施設・設備が不具合となっても重大事故につながる可能性は大きいと考えます。

液状化対策の取り組みとして10か所の設備が示されていますが、1 m沈下することを考慮して10か所以外にどのような液状化対策を考えているのですか。

例えば施設間の接続部分、機器や配管のつなぎ部分、サブドレン等の液状化対策はどのようになされているのですか。

- ② 旧原子力安全・保安院の地元説明会にて“支持地盤の西山層は軟岩の岩盤”と説明がありました、西山層の支持力は十分なのでしょうか。

支持地盤の支持力の確認はどのようになされているのですか。

地域の会 質問・意見書

日付：2020年8月19日

氏名： 竹内英子

(1) 資源エネルギー庁 (2) 原子力規制庁 に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

(1) 高レベル放射性廃棄物の処分について

- ① 使用済み核燃料を再処理で排出される高レベル放射性廃液は通常の使用済み核燃料に比べ管理が難しく危険性も高いと聞いています。放射性廃液は速やかにガラス固体化の処理をするべきだと思いますが、現在国内には高レベル放射性廃液はどのくらいの量あるのですか。(質問)
- ② 国内のプルトニウム保有量は増える一方でことが国際問題になりました。危険性の高い放射性廃液ができてしまう核燃料サイクルはあきらめ、直接処分にするべきだと思います。(意見)
- ③ 原発の再稼働はせずにこれ以上高レベル放射性廃棄物を増やさないことが将来世代への責任だと考えます。その上で、現在ある使用済み核燃料、高レベル放射性廃液、ガラス固体化されたものをリスク別に優先順位を付け、安全性を確認しながら保管できる方法を模索するべきではないでしょうか。火山や地震が多い日本で大地の動きが全くないフィンランドのオンカロや広大なアメリカで「唯一の処分候補地」とされたユッカマウンテンと同じ処分方法でよいのでしょうか。(質問)

(2) 適合審査がまだされていない1～5号機の使用済み核燃料プールへ、6,7号機の使用済み核燃料を号機間移送する事は、認められるのかどうか。(前回の地域の会で保留になっていた質問です)

提出先：【地域の会事務局】(公財) 柏崎原子力広報センター

〒945-0017 柏崎市荒浜一丁目3番32号 TEL 0257-22-1896 FAX 0257-32-3228